

おはようございます。

私たちは9月から毎週の礼拝で、初代教会が立て上げられていった様子を使徒言行録から一緒に学んでいます。それでは、教会とはいったい何でしょうか。私たちは教会へ何をするために来るのでしょうか。教会は、礼拝を献げる場所です。神の御言葉を聞き、祈りと賛美を献げ、自分自身を献げていく。その礼拝を行うのが教会なのですが、教会には自分だけではなく、ほかの多くの方々が集まってきます。ですから教会の礼拝においては、私と神様との関係だけではなく、私と神様、あなたと神様というそれぞれの人と神様との関係を通じて、私とあなたとの関係もまた、重要な要素となります。イエス様は、律法の中でもっとも重要な第一の掟として『心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし。力を尽して、あなたの神である主を愛しなさい』という掟を示された後に、第二の掟として、『隣人を自分のように愛しなさい』と語られました。隣人を自分のように愛すること。教会は、あなたと私との関係性の中で、『隣人を自分のように愛すること』を実践する場でもあるのです。

初代教会が起こされていくきっかけとして起こっていった出来事。イエス・キリストの復活、そして聖霊降臨。この二つの出来事がイエス・キリストを主と信じる人たちをたくさん起こし、そこに集まってきた人々が初代の教会を形成していきました。彼らはイエス・キリストを信じる信仰を共にする中で、生活も共にしていきます。今日の聖書の箇所、使徒言行録4章32節にはこう記されています。【信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。】初代教会には、持ち物を自分のものだと言う人はいませんでした。なぜなら、この世のものはすべて、神様のものだからです。すべての持ち物は、みんなのもの。なぜならそれらはすべて神様のものだからです。そこには財産を共有する共産制の社会の実現ということを超えて、心も思いも一つにしていた信仰の一致がより重要なことだったのです。ところが、それだけでは十分ではない、と聖書は語るのです。心と思いが一致していれば、貧しくても食べられなくても大丈夫だ、とは言わないのです。もちろん、心と思いが一致することがいちばん大切なことだけれども、食べること、生活することもそれに劣らず大事なことなのだ。初代教会はこうして生活を共にしていきました。33節以下にはこう記されています。【使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。信者の中には、一人も貧しい者がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売っては代金を持ち寄り、使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おのおのに分配されたからである。】信者がみんな、自分の土地や家を売り払って、代金を持ち寄った。こんな話をすると、今話題になっているいかがわしい新興宗教のようにも聞こえますが、初代教会の人たちはどこかの教団とは違って、強制されたり、強迫観念に縛られたりしてお金を献げたのではなく、自分の頭で考え、自発的に財産を持ち寄りました。新興宗教の怖いところは、考える力を奪うこと、マインド・コントロールにあります。マインド・コントロールとは、これをすればいい、これをしてはダメ、と行動のすべてをコントロール・規制することです。考えることを止めて、言われたことだけを実行していくのは、簡単なことです。しかし、神様は、私たちが自分の頭でしっかりと考える力をくだ

さいました。自分で考えて、自分で行動する。それが、マインド・コントロールされた人と、本当の宗教を信じている人の違いです。

初代教会においてはすべての人たちが自分の財産をすべて差し出したのでしょうか。いえ、必ずしもそうではなかったようです。初代教会で行われていたことは、制度や規則によって縛られて強制的に集めるのではなく、それぞれが自発的に持ち寄っていたのです。イエス様も一人一人の自発的行為を尊重されます。マルコ福音書14章3節以下に、イエス様の頭から高価な香油を注いだ女性の話が出てきます。そこでイエス様は、8節でこう語られています。「この人はできるかぎりのことをした」。できるかぎりのこと、ということと精一杯のこと、背伸びをしてでも、というようなニュアンスに聞こえますが、ここはもともとは「持っていたものを行った」というような意味で、彼女はできること、できる範囲のこと、自分の手に負えることを行った、というように理解する方が正しいようです。ですから今日の箇所も、すべての人が強制的に財産を持ち寄ったのではなく、それぞれが自発的に持ち寄った財産を、みんなの必要に応じて分配されたと考えた方がよいようです。

こうして、集められた共用財産は、必要に応じて分け与えられました。多く出した者が多く与えられるというこの世の論理とは違い、集められたものはそれぞれの必要に応じて分け与えられたのです。必要に応じて分け与える。私たちの社会では、たとえば9人の人がいて9個のパンがあったとすると、一人に一つずつ配るのが平等と考えることが多いようです。けれどもそれが、本当に平等なのでしょう。それぞれのおなかのすき具合も違うでしょうし、また、家に帰ると食べ物があるかどうか、その状況もそれぞれ違うと思います。それぞれの必要に応じて分け与える。出エジプト記で荒れ野をさまようイスラエルの人々に与えられた天からのパン・マナも、それぞれの必要に応じて与えられたのでした。

こんな話を聞いたことがあります。ある教会のお話ですが、その教会には、大きな箱が置いてありました。その箱にはみんなが少しずつ、家から持ってきたお米が入れてありました。何か良いことや感謝なことがあると、それぞれの家からお米を少しずつ持ってきては、その大きな箱に入れていきました。では、そうやって集められたお米はいったいどうなったのでしょうか。そのお米は、誰でも必要な人が黙って持って帰ることができました。お金がなくてお米を買えない人がその教会にやって来て、必要な分だけ、家族が多ければ家族の分も含めて、お米をもらっていきました。誰にも知られることなく、必要に応じてお米は分けられていったのです。そんな素敵教会になれたらよいと思います。

福音書において、弟子たちがイエス様から「人間をとる漁師にしよう」と招かれた際、シモン・ペトロやアンデレ、ゼベダイの子ヤコブとヨハネは漁師という仕事を捨て、家や家族も捨ててイエス様に従っていきます。徴税人レビも同様に、すべてを捨ててイエス様に従っていきました。けれども、私たちが学んでいます使徒言行録に出てくる初代教会の人たちは、仕事を捨てたわけではありませんでした。仕事はそのままにして、自分たちの財産を持ち寄ったのです。そして彼らは、家族を捨てたのではなく、家族も一緒に連れて、教会にやってきました。34節にはこう記されています。【信者の中には、一人も貧しい人がいなかった。土地や家を持っている人が皆、それを売って代金を持ち寄り、使徒たちの足もとに置き、その金は必要に応じて、おのおのに分配されたからである。】ここで大切なことは、すべての人が全財産を持ち寄って共有したということではなく、持ち寄ったものを必要に応じて分配することで、初代教会には貧しい人が一人もいない共同体を作って

いたということです。みんなで持ち物を分け合うことで、この世の経済的な貧しさもなかったのですが、彼らには霊的な貧しさもなかったのです。初代教会はそのような共同体でしたので、33節に記されているように、単なる生活共同体とは大きく違っていました。【使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、皆、人々から非常に好意を持たれていた。】初代教会は、主イエス・キリストの復活を証しする信仰共同体でした。そして彼らは、人々から非常に好意を持たれていたのです。教会の命は、復活の主イエス・キリストを証しすることです。なぜなら、イエス・キリストの十字架と復活こそが、教会にとっていちばん大事なことからです。

このように、初代教会では財産も信仰もすべて、共に分かち合うことのできる、とても豊かな教会を形成していました。ところがそれにもかかわらず、今日の聖書の箇所ですぐ後に出てくる使徒言行録5章には、アナニアとサフィラという夫婦が自分たちの財産をごまかしてしまい、そのせいで二人とも息が絶えてしまう話が出てきます。いったい二人の何が悪かったのでしょうか。この話は、クリスマスが終わった来年の年明けの礼拝説教で取り上げますが、簡単にお話ししますと、二人が問われたのはすべてを献げなかったことではなく、土地の代金をごまかすことによって、彼らがもともと所有していた土地も、その土地を売った代金も、ぜんぶ自分たちのものであると勘違いしたことが問われたのです。二人は、土地もその代金もすべて、天地を創造された神様のものであることを忘れてしまい、そこに心を寄せることができずでした。私はこんなふうに思います。彼らが献げたお金が、たとえ土地を売った代金全額ではなかったとしても、そのことを神様とみんなの前で素直に明かしていれば、違う結果になったのではないだろうか。土地もその代金もすべて神様がくださったもの、すべてが神様の所有であることを認め、神様に感謝して献げていたなら、神様の怒りに触れることはなかったのではないだろうか。この世における命も財産も、すべてをくださった神様への感謝の思いが彼らには欠けていた。土地もその代金も自分たちのもの、という自己所有欲に目がくらみ、すべては神様のものであるという神の所有を否定するということは、神そのものを否定することへとつながっていき、ひいては神様との関係を断ち切ることになっていくのです。

初代教会は、すべてのものを共有しました。福音を共有し、信仰を共有し、心と思いを共有し、その結果として、財産を共有し、そのお金は必要に応じて分け与えられました。信仰の共有と財産の共有。それは、教会を立て上げてくださっておられる神様とも信仰や財産を共有することであり、教会の主であるイエス・キリストとも信仰や財産を共有することなのです。キリストの教会である私たちは、主イエス・キリストから豊かさも貧しさも一緒にいただくのです。そしてそれをみんなで分かち合う。初代教会の人々は、信仰も財産も、それぞれの必要に応じて分け与えられていったのでした。

今日から、世界バプテスト祈禱週間が始まりました。世界バプテスト祈禱週間は、中国で宣教師として働いたロティ・ムーンからの呼びかけによって、アメリカにあるバプテスト教会の女性たちを中心として、霊的な支援と財的な支援を行ったことから始まりました。中国伝道を覚えつつ、信仰と財産を共に分かち合う共有の精神が、この働きを支えたのです。世界バプテスト祈禱週間を迎える今、私たちも、教会の内外を含めて、信仰と財産を共有することのできる教会になっていきたいと願います。

お祈りしましょう。